令和2年度　分掌チャレンジ　中間報告　　10月

資料③

令和2年度				分　掌　名	教務部・生徒指導部・進路保健部・首席
学校経営計画				中間報告　10月	
勉強がわかる喜びを伝える	「分かること」の楽しさを体験できる授業づくり	生徒が「分かった」と実感できる授業づくりに取り組み、学力の定着及び出席者の増加を図る。	生徒の学力に応じた教材を作成し、わかりやすい授業を行う。	前期単位修得者の割合が、昨年度の75.5%に対し、今年度は84.7%に増加した。授業内容改善については、授業見学や教科内での勉強会を実施するなどの工夫をしている。	
			ICTや視聴覚教材を用いた授業を数、質ともに充実させる。	今年度前期にICT機器を利用した授業実施数は、分散登校（5月）の制約があったにも関わらず、昨年度前期を上回る811回であった（令和元年度：764回実施）。今後は、教務部が主導となり、効果的なICT活用事例を共有できる場を設定していきたい。	
			授業見学、研究授業等により、各教員が指導法の工夫・改善に取り組む。	9月に第1回授業見学週間を設定し、のべ11回の授業見学が行われた。今年度は、教科の枠を超えた見学も見受けられ、相互の授業力向上に資するものがあったと思われる。11月に第2回の授業見学を設定しているが、第1回より期間を長く設けたので、より多くの相互研鑽を期待したい。	
			授業において、図書室の利用を促進する。	図書室での授業実施や、図書室を活用したレポート課題の設定をしたほかに、学習内容と関連のある本（本校蔵書）を授業中に紹介するなど、図書室利用を促すよう努めている。その結果もあり、7～9月の図書室利用者が前年度に比べて増加傾向にある（7月：112%、8月：393%、9月：198%）。	
		全教員で授業規律について指導する意識を共有し、生徒が落ち着いて学習できる環境づくりに努める。昨年度に引き続き、授業中の携帯電話の指導を学校で統一して行う。		・6月から通常登校がスタートし、現在に至り、概ね落ち着いた授業雰囲気を保つことができている。しかしながら、遅刻をしてくる生徒が日に日に増えてきているため、時間厳守及び進級・卒業に向けた指導を継続して行っていく。 ・現在、授業中の携帯指導による特別指導件数は0件である。	
人に認められ人と理解しあえる喜びを伝える	基本的な倫理観や規範意識を育てる。	教科の学習およびHR・総合的な学習の時間等も含めた教育活動全体を通して指導する。		・現在、特別指導件数は5件であり、例年に比べて非常に少ない件数である。その内、5件とも喫煙関係によるものであり、授業妨害や口論から発展した暴力などの指導はないため、継続して生徒たちの倫理観や規範意識を育てていく。 ・未成年の喫煙問題や成人の喫煙マナーについては、全教職員で継続して指導、呼びかけをしていく。	
	人と関わる体験を通して、コミュニケーション能力の育成を図る。	挨拶ができる生徒を育てる。		・生徒の登校時には門当番の教員だけでなく、多くの教員が門に立ち、積極的に挨拶と声かけを行っており、生徒が自主的に挨拶をしやすい環境作りができている。生徒たちも挨拶に返答してくれることが大半を占めているため、今後は生徒たち自身から挨拶をしてくれることが大半を占めるような指導をしていく。	
		生徒会行事等を通して、遠足、修学旅行等に安心して参加できる環境を作り、仲間とともに行事に参加できる生徒を育てる。		・今年度の体育祭は新型コロナウイルス感染拡大防止による制限が数多くあり、準備期間が短い中、生徒会や体育祭の主担教員の努力があり、生徒会の生徒たちを中心とした、主体的に様々な役割で参加、活躍できる行事とすることができた。今後行われる文化祭等の行事も、今年度実施可能な制限の中で最大限の努力をしていく。 ・今年度の体育祭への生徒参加率は59.7%と設定数値を超えることができた。	
		各種行事において、保護者や地域住民および地域の中学校教員と積極的に連携・交流を図る。		・今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、体育祭は保護者を含めた招待者を見送る形となった。今後行われる文化祭等は入場規制をかけたうえでの招待となる見込みであるが、その中でより良い連携・交流となるように最善を尽くす。	
		ボランティア活動や部活動等を通し、学校に対する誇りと自己肯定感を育てる。		・今年度は雨天中止による非開催のため、ボランティア清掃が現在、実施できていない。今後、開催見込みである。 ・今年度は活動内容や大会等が縮小・中止となる中で各部活動は工夫と協力をしながら活動できている。	
	生徒指導に際して、各教員が生徒との人間関係を最大限大切にしながら、家庭・中学校・地域との連携を密にして取り組む。			・新型コロナウイルス感染拡大防止による制限が数多くあるために、生徒や保護者は例年以上に様々なストレスを抱えていることが予想される中、指導や連絡を行う場合は、教員間できっちりと連携を取ったうえで、教員と生徒、学校と家庭との意思疎通を図っている。今後も生徒や保護者と積極的にコミュニケーションを取り、問題行動の未然防止・早期改善を心掛けていく。	
	フォローアップコーディネーターを中心に困難を抱える生徒への支援体制を整える。			(A)本校の在り方についての検討 　新指導要領に合わせた本校のカリキュラムについて、目指すべき生徒像の見直しも含め検討していく。 (B)支援を必要とする生徒への取組み ⇒生徒支援の具体的な方策の明示 ①個人カルテの作成をスタートさせている。 ②要支援生徒に対して個別の教育支援計画・指導計画を作成した。後期に向けて更新していく予定。 ③ケース会議は頻繁に行っており、記録も残している。 ④スクールソーシャルワーカーを活用し、担任と連携して要保護児童に対しての継続した見守りを行っている。 ⑤障がいのある生徒の進路についてSSWとハローワークを訪問し相談を行っている。 ⑥必要な夜間介助員は起用することができた。学習支援員をあと1～2名起用したい。 ⑦コグトレを活用したネヤトレを総合の講座として前期開講した。生徒は真剣に取り組んでいた。 (C)中途退学や長期欠席を予防する為の家庭との連携 ⇒毎月1回開催している教育相談委員会では各学年からの情報を共有し、SSW、SC、養護教諭も出席し助言を行っている。 (D)職員研修 ⇒コグトレをテーマに9月15日に教職員研修をおこなった。 (E)上記の取り組みにより、令和2年度末の中途退学率を11．1パーセントとする。	
夢や志を抱く喜びを伝える	進路指導の充実を図る。	進路に関する十分な情報を生徒に提供するとともに、保護者にもその情報が届くようにする。		今年度から「進路通信」を不定期に発行し、就職制度、入試制度の変更の通知に活用している。 また卒業学年対象の総合的な学習「就職セミナー」では早期から就職試験対策をし、今年度の特殊な就職状況の通知に努めた。 その結果10月16日から開始された就職選考試験で、10月29日時点で7名の内定を得ることができている。	
		進路ガイダンス機能の充実を図るとともに、個々の生徒のニーズに合った進路指導をする。		11月実施予定の「秋の進路ガイダンス」では企業6社、専門学校4校に来校していただき、生徒の希望に応じた分野に分かれ、講演をしていただく予定である。	
		就業体験をする生徒を増やす。		9月以降、企業のアルバイト求人数の減少に伴い、アルバイト希望者をハローワークへ引率し、確実に就業へと結びつける指導をしている。	
組織の活性化と人材育成	校内組織の活性化	首席を中心に、経験年数の少ない教員の育成に取り組む		全日制首席と全定の授業見学週間について計画を進めている。（R3.1月予定） 広報活動として取り組んでいる学校紹介授業風景動画の作成プロジェクトを若い教員と協力して進めている。	
	職務の効率化の取組み	時間外勤務を軽減させ、自身の健康について管理する。		業務の効率化を目的としてカラーコピー機を校長マネジメント予算に組み込んでいただき、職員室に設置の予定。	
		コンプライアンスについて意識を高め徹底する。		コンプライアンスに関する周知を職員会議等を通じて行う予定。	
		危機管理意識・防災教育や保健・安全・衛生管理意識を高め、校内の体制づくりを取組む。		進路保健部を中心に防災マニュアルの作成をおこなった。	

令和2年度　分掌チャレンジ　中間報告　　10月

資料③

令和2年度	分　掌　名	教務部･生徒指導部･進路保健部･首席
学校経営計画	中間報告　10月	